

# 人 かお トーク

## 富士山の自然をいつまでも守りたい

4月から長期滞在型の農業体験プランを始めました

●河口湖町の北西側にある富士河口湖町大石地区はかつて、農地が一面に広がり野菜が栽培される土地でした。湖畔の住民は昔から富士山を眺めながら農業をし、自給自足の生活を送ってきたのです。しかし、高度経済成長とともに農業の魅力は薄れ、同地区

休耕農地を使い富士河口湖町で長期滞在型農業体験プラン提供

田村孝次さん(44)



は休耕農地が自立つようになりました。しかも、同地区には多くの民営があり、予約の少ない平日には空き部屋も出ます。大規模農家を迎えた同地区は移住先を探すと、同地区の民営に長期滞在しながら農業を始めたいプランを企画しました。

●私はカヌーなどを通した野外活動を提供する会社を経営していますが、この会社が農地を借り、プランの参加者に1区画ずつ貸し出し、トマトや大根、ソバ、白菜などの野菜の栽培を体験してもらっています。収穫した野菜は参加者の所有となり、食べきれない分は私たちが買い取ります。収穫した野菜から収入を得ると、農家と同じ体験をしながら、田舎暮らしが自分に向いているかじっくりと判断することができま

す。宿泊先は大石地区などにある民営の軒から選びます。例えば私の経営するロッジなら、3泊コースで1人9万4500円、2人で15万7500円からです。移住には新たな土地に慣れる必要がありリスクもありますが、このプランを利用すれば、小さな資金で農業生活が自分にとっていかにできるか試してみることができます。

この地域ならではの強みは

●富士山という大自然の宝が、周辺にあると知れよう。富士山を眺めながら、農作業に励むことができるのです。

●河口湖一帯は一大観光地。空いた時間には湖光地蔵を参拝することもできます。写真や絵巻をたしなんだり、トレッキングやマリンスポーツもでき、パリエーションに富んだ過ごし方ができます。そして、移住を決めれば、町には空き家を紹介する窓口もあります。農業を始めたら約3カ月がたちますが、既に十数人から問い合わせがあり、現場を下見した人も数人います。

●私の究極の目標は富士山のすもとの美しい環境と自然

【聞き手・宇都宮浩二】

たむら・こうじ 1983年5月、東京・武蔵野で生まれる。21歳のとき、自動車関係の会社を起業し、英国で11年間生活する。しかし、次第に自然と触れ合う仕事をしたいと思い始め、会社を売却後、日本を全国行脚。湖、山、川に囲まれた富士河口湖町大石地区に8年、回を構え、カヌーや釣りの趣味を武器に子どもたちに環境教育を行う会社も起した。01年から農場NPO「フィールド」の事務長。05年からロッジも経営している。